



ものづくりの想いを伝えたい。

27年度大阪製ブランド認証製品をご紹介します。

平成28年度「大阪製」ブランド認証製品の募集を開始しました

募集期間 2016年5月16日(月)～9月16日(金)必着



想像力が広がるレンズをプラス マクロの世界を手に入れよう

スマートフォンのカメラ機能はバージョンアップごとに、その性能を上げ、SNSが一般的になったことで普段の生活の中では、「とりあえずスマホで撮影」というシーンが多くなっている。とはいえ写真を撮れば撮るほどに、力不足を感じてしまう場面も。それが顕著なのがマクロ撮影。レンズは、広角や望遠など、その種類によって特性や描写が大きく変わるが、「マクロレンズ」は、小物や植物、昆虫などの撮影で高いパフォーマンスを発揮するもの。スマホのデジタルズーム撮影は、画像の一部を切り出して拡大表示させているだけなので、どうしても画質が劣化してしまうのだ。ジュラロン工業が大阪大学フォトリソセンターと共同企画した、モバイルマクロレンズ「HULSCOPE」はこの問題をクリアし、マクロの世界を堪能できる。「従来はCDやDVDなどの情報を読み取るピックアップ用対物レンズの設計・製作をする会社です。この高性能な非球面レンズをもっと身近な生活に活用できないか、と開発がスタートしました」(営業チーム青木真司さん)。現在、スマートフォン用マクロレンズもいくつかあるが、その多くは「歪み」から逃れられない。格子柄のものを撮影するとよくわかるが、画像の中央以外では直線がゆがんでしまう「歪曲収差」がおきてしまうのだ。「HULSCOPE」は、自社の高性能な非球面レンズを使って、この歪曲収差を防ぐ。「精密レンズメーカーとして、精度には徹底的にこだわりました」(開発チーム鈴木達也さん)。

さらに、iPhone専用のアプリ「ハルスコープ」のデジタルズームを使用すれば、最大40倍の接写画像が撮影可能になる。たとえば肉眼では分からないが、日本のお札には偽造防止のために、微細な文字で「ニ・ホ・ン」と印刷されている。このレンズをつけると、はっきりと判読できるほど拡大、撮影できる。アプリは一般的な撮影モード変更に加えて、グリッド追加・テキスト編集・SNSダイレクト投稿機能を搭載。レンズの用途を広げるのが、画面上に現れた定規で対象物を測定ができる点。これはビジネスや研究にも活用できそうだ。接着面には特殊ゲルシートを採用し、何度でも装着可能。スマートフォンのレンズに合わせて、貼るだけのお手軽さ。ルックスはポップ、されど実力は本格派なのだ。散歩途中に立ち寄った公園、家の庭、デスクまわりさえも、マクロレンズを使えば、まったく違った世界に早変わり。肉眼で見られない、昆虫の愛らしい表情、早朝の朝露や雨上がりの滴がついた草花。「HULSCOPE」が、あなたのなにげない日常を、発見の連続にきっと変えてくれる。



コンパクトな切手サイズ。カラーバリエーションは5色(赤・オレンジ・緑・水色・黒)。キャップの役割を果たすキャリングケースには、ストラップホルドが付いており、ポータブルにマクロの世界を体験することができます。

HULSCOPE / ハルスコープ

ジュラロン工業株式会社
<http://juraron.co.jp/>



TOPICS

関東や九州のドン・キホーテ新店舗を中心に販売を開始、新販路開拓に取り組み中

ママの想いを商品化し、 働きやすい環境から発信

赤ちゃんはママに抱っこされている時間が、もっとも安心できる時間。「赤ちゃんをずっと抱っこしたい」というママの気持ちから誕生し、一緒にいられるこのスタイルが、ママやパパへの信頼感にも繋がる「抱っこひも」。移動時のフットワークの軽さも、お出かけはもちろん、家事や寝かしつけなど、毎日欠かせないものだが、子どもの機嫌やシーンに合わせて着脱する機会も多い。育児中の外出には、ベビーカーと抱っこひもの両方持っていく人が多い。そこで多くのママたちが感じるのが、「便利だけど、かさばる!」ということ。そして使っていない時には、だらーんと抱っこひもが腰からぶらさがってしまう。それが共通の悩みだった。そこに救世主のように現れたのが、抱っこひも収納カバー「ルカコ」だ。使い方はいたってイージー。肩ひもを折りたたみ、本体を丸め込み、セットしておいた収納カバーに入れ込んで、スナップを留めるだけ。肩やウエストでバッグのように持ち運べ、ベビーカーにも引っ掛けられる。あったらいいなをカタチにする。このアイテムを開発した仙田忍さんも、気軽に持ち運べるものが欲しくて、収納カバーを手づくりしたところ、まわりに大好評で商品化を決意した。「抱っこひもをスマートに収納できる、機能は特化して、柄のバリエーションを豊富に揃えることで、選べる楽しさを充実させています。育児は楽しいけれど、時に大変。女性はお気に入りがあるだけで、頑張れたり、楽しい気持ちになれますから」。仙田さんのお小遣い5万円を元手に自宅からはじめた、抱っこひも収納カバー「ルカコ」は、販売からわずか半年で100万円売り上げた。今やママたちのお出かけ必需品になっている。実体験にもとづいたグッズでママを応援すると同時に、その過程で育児と仕事の両立の難しさを実感した仙田さんは、ママが働きやすい職場をつくりたいと起業。顧客層と同じ育児中の女性を雇用して企画、縫製、梱包発送まで、自社でおこなっている。「育児の大変さを知るスタッフだからこそ心遣いが、商品から伝わるといいなと思います。これからまわりの人に夢を与えながら進みたいですね」。使う人のスタイルに合わせて北欧風やリパティ、夫婦兼用できるユニセックスなものまで、すでに150種類以上の豊富なテキスタイルを発表しているが、今春初めてオリジナルのデザインをリリース。ユーザーの声を反映させ、デザインから企画、生地への染色まで、日本製にこだわったものになっている。

現在、海外からの問い合わせが増えてきている。「品質は保ちつつ、海外のママにも「ルカコ」を広げていきたいと思っています」



ブランド名は、仙田さんの愛する2人の子どもの名前からネーミング。生地からつくられたオリジナルの柄は3種類。これは育児に奮闘しながら頑張るママたちの、活気に溢れた社内にイメージしたものを、子どもたちをイメージしたデザインもこっそり描かれている。

抱っこひも収納カバー「ルカコ」

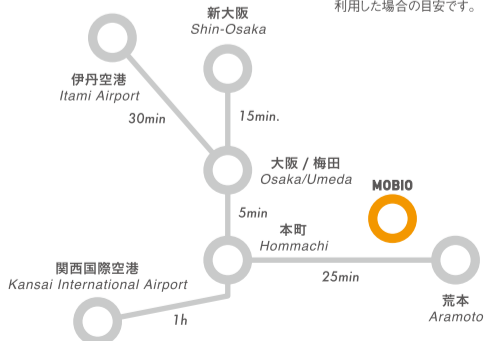
株式会社ルカコ
<http://lucacoh.com/>



TOPICS

スマホサイトがおしゃれにリニューアル! おしゃれな子育て専門誌でも多数紹介

Access



MOV,press 2016, JUN. VOL.017

Published

MOBIO (ものづくりビジネスセンター大阪)
大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課

Staff

| | |
|-----------------|-------------------|
| チーフエディター | 浅野 由裕 (株式会社ファイコム) |
| エディター | 阪本 聡子 (株式会社ファイコム) |
| アートディレクション・デザイン | 前田 敏幸 (株式会社ファイコム) |
| フォトグラファー | 北尾 浩幸 |
| ライター | 町田 佳子 |
| | 北川 学 (文士舎) |
| プリンティングディレクター | 野村 いずみ (有限会社山添) |